

青木村子どもはつらつネットワーク通信

令和5年度 第216号 11月1日

青木村子どもはつらつネットワーク事務局発行

青木村保育園子育て支援講座「その子にとって自然な話し方を守り、育てる～吃音のある子どもとその家族の支援～」が9月15日（金）に開催され、東御市民病院の餅田亜希子先生からたくさんの事を学ぶことができました。その様子を抜粋してお伝えします。



その子にとって自然な話し方を守り、育てる ～吃音のある子どもとその家族の支援～



東御市民病院 餅田 亜希子先生

「どもらずに話そう」とするほど悪化する

吃音といえば、「ぼ・ぼ・ぼ・ぼくは」のように言葉の最初を繰り返す「連発」がよく知られていますが、ほかに、「ぼーく」のように言葉を伸ばす「伸発」、最初の言葉が出しづらい「難発」があることをご存知でしょうか。多くは、連発から始まり、周囲から指摘され、「どもらないで話そう」と工夫することで連発が伸発へ、さらに、のどが締め付けられるように、息が詰まる苦しさを伴い、言葉が出づらく身体を使って声を出そうとする難発へと悪化していきます。

吃音のスイッチが入るのは、人と話そうと構える時で、ひとり言や動物に話しかける時は、どもることはありません。夢の中で人と話していると寝言でもどもることがあります。また、吃音には波があり、人・場所・話の内容・時期によって変化します。このように吃音と一口にいても、症状は複雑で個人差があります。



吃音の悪化

- 逃避(随伴症状)
- 回避(言い換え・話す場を避ける)
- 自尊感情の低下
- 自己実現の阻害

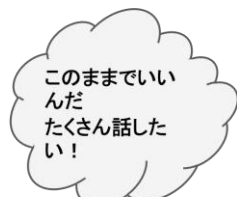
二次障がい
(吃音の複雑化)

吃音が悪化すると、その話し方は周りからは見えづらく、気づかれにくくなるのと反比例して、本人の苦しさや悩みは大きく、深くなっていきます

間違った認識が当事者と家族を苦しめる

吃音は、まだ原因が特定化されておらず治療法もわかっていないため、症状に関する理解も十分に広まっていません。親のしつけやストレス、愛情不足が原因といった、さまざまな誤情報が一人歩きし、そのことで周囲からの非難や間違った助言をされた親は、傷つき、孤立感を強めてしまう恐れがあります。

中でも、注意しなければならないのは「吃音について話題にしてはいけない」という間違った考え方です。しかし、この誤情報を信じ、親が吃音に気づかないふりをして、何もしていない様子を見ては、専門家に出会えないか、出会っても受診が遅れ、症状が悪化してしまいます。専門家による助言・指導を早期に受けることで、吃音の悪化を防ぐことができます。



知ってくれている大きな安心感

吃音のある人とその親が、世間一般に浸透している間違った考えや方法を回避して、正しい情報にたどり着けるかは、将来に大きな影響を与えます。そして、吃音のある人が、症状を悪化させることなく、ありのままで安心して話せる環境を整えることが大切で、そのためには、周囲のいる人が吃音を正しく理解することが欠かせません。

こんな伝え方はどうでしょうか

今から大切なお話をしますね。

みんな、ユウちゃんがお話するとき、「ああああそうぼう」とか「こここちきて」ってなることあるの知ってたかな？知ってた人も、知らなかった人もいるよね。それは、いつではなくて、なったりならなかったりするかもしれません。

ふしぎだなあって、なんで話し方がちがうのかなあって思った人もいるかもしれなせん。なので、みんなにちゃんとお話しておきたいなって思います。

「あああ・・・」ってなるのは、それがユウちゃんのふつうの話し方なんです。その方が話しやすいんです。

ユウちゃんは「あああ・・・」ってならないように気をつけちゃうと、話しにくくなってしま

います。みんなが「ユウちゃんは『あああ・・・』ってなってもいいんだ、その方が話しやすいんだ」ってわかってくれていると、安心して「ああああそうぼう」って言えるんです。

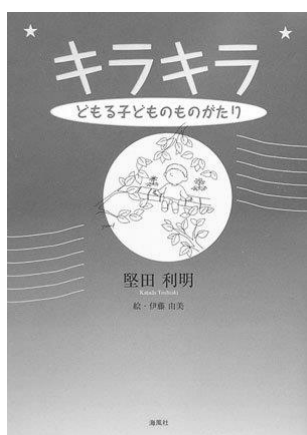
ユウちゃんもみんなに教えてあげたいなって言うてくれました。だから今日はみんなにこのお話をしました。ちゃんと聞いてくれてどうもありがとう。



これまでの、
「大丈夫」「触れない」「説明しなくてもみんな分かっているから」「そっとしておく」「様子を見る」という姿勢から
これからは、
本人も、まわりの子どもたちも早期から吃音について学ぶ機会があり、正しく
知ることで、「吃音のある子にとって自然な話し方が守られる」ための対応へ

吃音のある子ども自身の自己理解と、他者の理解によって吃音の悪化を予防し、さらには、
悪化しかけている吃音を、楽な話し方に戻してあげることができます。

* お勧めの本 *



堅田利明 著

キラキラ
どもる子どものものがたり

続編 キラキラ

どもる子どものものがたり
～少年新一の成長記～



堅田利明 著

「吃音」の正しい理解と
啓発のために
～キラキラを胸に～



みなさまの正しい理解によって、青木村保育園が、そしてこの地域が、吃音のある子ども
たちが安心してその子の自然な話し方で生活でき、吃音のない子どもたちも、吃音の正しい
知識をもって成長していける、そんな場になりますように。

「今日学んだことをお子さんに、ご家族に、知り合いの方に伝えていってみよう！」
とっていただけたら嬉しいです。
どうもありがとうございました。



子育てフォーラム開催のお知らせ

11月25日(土)青木村文化会館において『子育てフォーラム青木2023』が開催されます。保小中一貫教育の各委員会の発表、展示、分科会と、講演会では講師に子どもとメディア信州の町田祐介さんをお招きして、子どもとメディアとの関わり方についてお話ししていただきます。ゲーム・ネット・SNS 依存や生活リズムの乱れ、健康への被害など一緒に考えてみませんか。

大勢の皆様のご来場をお待ちしています。



★ 2019年のフォーラムの様子 ★



編集後記 講演会に参加した保護者から「吃音について知ることができてよかった。」「自然な話し方を大切にしたい。」などの感想が寄せられました。餅田先生、ありがとうございました。

